

図書館だより

枚方市立図書館通信第 95 号 <http://www.city.hirakata.osaka.jp/site/sub-news/tayori.html>

発行：平成 26 年 11 月 枚方市立中央図書館（毎週金曜日・第 4 火曜日休館・11 月 23 日は計画停電のため臨時休館）

〒573-1159 枚方市車塚 2-1-1 TEL 050-7105-8141(代) FAX 072-851-0962 写真：中央図書館 6 階多目的室



10/12 「読み聞かせボランティア養成講座」中央図書館 6 階多目的室にて

「読み聞かせボランティア養成講座」第 1 回目開催 男性も参加、10 月 12 日曜日、中央図書館にて

レポート

「読み聞かせボランティア養成講座（全 4 回）」が始まりました。参加者は 37 名（男性 7 名）。今年は日曜日に設定したため、男性も参加しやすくなりました。講師は甲南女子大学非常勤講師の芦田悦子さん。第 1 回目の 10 月 12 日は「絵本の読み聞かせの意義について」。絵本を読むと日常会話にはない言葉がたくさん学べて、語彙が豊富になります。「ヘレン・ケラー自伝」（川西進訳 ぶどう社）を紹介しながら、言葉を獲得することがいかに大事なことであるか、言葉によって人間は思考を深め、生きる力を育むのだと教えていただきました。サリヴァン先生が来たのはヘレン・ケラーがもうすぐ 7 歳になるときでした。言葉を知らないヘレン・ケラーはアイスクリームをもう一皿食べたいときは暴れるしかありませんでした。有名な逸話、井戸の水により「ウォーター（水）」という言葉を獲得したときから、自分の人生に光明が差したとヘレン・ケラーは書いています。この自伝はヘレン・ケラーが 22 歳のときに書かれたもので、「文学が私の理想郷」と締めくくっています。「若草物語」からシェイクスピアやゲーテまで読みこなすヘレン・ケラーは文学の世界にひたっているときは、何の障害もなく想像力が無限に広がるからです。読み聞かせとは、ひいては文学とは無限に楽しめるものだと改めて知ることができました。（中央図書館児童サービスグループ担当）

11 月の図書館イベント

○世界のバリアフリー絵本展

- 中央図書館 10 月 25 日(土曜日)～11 月 9 日(日曜日)

○おはなし会

- 中央図書館

「手話でたのしむおはなし会」 第4土曜日 14:00～

- 香里ヶ丘図書館

「サークルふうせん」第1水曜日 15:30～

「枚方おはなしを語る会」第2水曜日 15:30～

- 菅原図書館 毎週水曜日・土曜日 15:30～

- さだ図書館

「おはなしな一じょ」11月23日(日曜日)11:00～

- 牧野図書館

「牧野おはなしかくれんぼ」 第4水曜日 15:30～

- 御殿山図書館

「紙芝居サークルよっちゃん」第1水曜日 15:30～

「おはなし会」毎週土曜日・日曜日 15:30～

- 津田図書館 毎週土曜日・日曜日 15:30～

- 枚方公園分室

「えほんの会」第2木曜日 10:30～

- 村野分室

毎週水曜日 15:00～、毎週土曜日 11:00～

- 山田分室

「山田おはなし会」毎週水曜日 15:30～

- 藤阪分室

「ぼけっとさんのおはなし会」

11月15日(土曜日) 14:30～15:00

- 香里園分室

「おはなしメリーさんのおはなし会」

第2水曜日 15:30～

- 宮之阪分室

「ビスケットの会のおはなし会」

第3土曜日 13:30～14:00

- 東香里分室 毎週水曜日 15:30～

- 氷室分室 毎週土曜日 14:00～

- 茄子作分室 毎週水曜日 15:30～

- 釈尊寺分室 毎週水曜日 15:30～、土曜日 10:30～



ふれあいルーム (絵本で子育て)

- 中央図書館 毎週月曜日

- 香里ヶ丘図書館 第1・3(金)第2・4(木)

- 楠葉生涯学習市民センター 第2・4火曜日

- 菅原図書館 毎週日曜日

- さだ図書館 毎週木曜日(第3週は金曜日)

- 牧野図書館 毎週金曜日

- 津田図書館 毎週水曜日

- 御殿山図書館 毎週金曜日

いずれも 10 時～12 時 30 分 (楠葉のみ 9 時 30 分～12 時) 但し、図書館等の休館日には実施しません。

問合先(子育て支援室)072-841-1221 代

ちょっと【本の紹介】

『東大教授が教える独学勉強法』

柳川範之著 草思社

著者は父親の海外赴任のため高校へは行かず、通信制大学で学んだ。そうした経歴で培った独学法を紹介しているが、資格取得や受験勉強のためというよりも、著者の言う「答えのない問いに自分なりの答えを見つける勉強」の方法である。

独学の最大のメリットとして『『自分のペース』で勉強できる』ことを挙げている。とかく勉強は、速く理解できた人が優秀と思う傾向があり、それに該当しないと「頭が悪い」「向いていない」と思ってしまう。しかしそれはほとんどの場合、自分が速く理解できるタイプではなく、ゆっくり時間をかければ、違った理解や深い理解ができる可能性がある。独学なら人と比べることなく、自分のペースで進めていくことができ、それがメリットとしている。

読了して思ったことは、当たり前だが万人に合う勉強法はなく、自分なりに試行錯誤する必要があるということである。ただ著者が繰り返し使う「ゆっくり」という言葉を励みに、「何か」勉強できたらと思う次第である。ちなみに「何か」の探し方についても記述している。

ティーンズ向けの図書として『独学という道もある』(筑摩書房)がある。

(中央図書館 6 階選書担当)